



2nd WORLD DEAF RUGBY SEVENS  
—CORDOBA, ARGENTINA—

報告書

2023年6月

特定非営利活動法人日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟



## ごあいさつ

*2nd World Deaf Rugby Sevens Championship, in Argentina 2023*が5年ぶりにアルゼンチンのコルドバ州で開催いたしました。その世界大会に際し、三機工業株式会社をはじめ、吉岡株式会社、株式会社ミカレア、まつもとペインクリニック整形外科、株式会社 LIMA HOLDINGS、キンググローリー株式会社、岐阜清流病院、大成建設株式会社、清流株式会社そして多くの個人の方々から、予想をはるかに超えた心温まるご厚意を、そして多大なる協賛を頂戴いたしました。また（公財）日本ラグビーフットボール協会のご協力をいただき、世界大会に出場し、対戦できましたことを、心より御礼申し上げます。これもひとえに、ご尽力いただきました皆様のご支援の賜物と感謝しております。

今回の世界大会開催には、コロナの影響で1年以上延期になり、同影響による運営面がかなり厳しく、2023年2月までは中止・延期のやむなきに至ったことが多くあり、開催が危ぶまれていましたが、各国の「デフラグビーファミリー」の思い、きづなの強さゆえ、かろうじて開催への運びになりました。各国のきづなに感謝しております。

今回は、アフリカ大陸から南アフリカ代表、そして南米大陸からアルゼンチン代表が初出場し、バーバリアンズチームには、ブラジル、チリ他からの選手が来てくださり、同じ障がいを持ちながら、国境を越え、肌の色や文化などが違う各国との、誇りをもった熱い戦いを、そして言葉の壁を越え、デフラグマンたちとの友好を深め、今後のさらなる交流を誓い合えたことも、大きな財産になったのではないかと考えております。

日本代表・クワイエット・ジャパンは、力及ばず7位という結果で、ご期待に沿えず、残念な結果となってしまいました。心待ちにされていた良い結果に応えることが出来ずに、大変申し訳ございません。

私たちクワイエット・ジャパンは勝利を掴めそうで掴めなかった、今回の結果を糧に上を向いて、より美しい桜を咲こうとアップデートしながら前へ邁進していきます。

聞こえない方がラグビーをやるのは危険だと、恵まれてなかった環境だった30年前から普及や共生活動などを繰り返して、少しずつ歩み寄ってくださったことで環境が少しずつ変わりつつ、今回の大会を通して日本そして世界で「デフラグビーファミリー」が増え、この競技が持つ素晴らしさを多くの人に伝えていただけたのではないかと考えております。

最後に、皆様から頂戴いたしましたご協賛・ご支援を重ねて、心より感謝し、ここに今回の世界大会の報告をさせていただきます。重ね重ね、ありがとうございました。

特定非営利活動法人

日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟

理事長 日野 敦博

## 2nd World Deaf Rugby Sevens Championship に参戦して

監督 落合 孝幸

### 1.国内強化合宿の実施報告

下記に国内での実施した強化合宿の期間、場所、主なテーマ他を示します。

表 1.1 国内強化合宿の実施内容

<日本代表候補選手強化合宿>

実施日	実施場所、主な施設	主なテーマ他
2021年 11月	千葉県長生郡 リソル生命の森	フィットネス測定実施（以降、毎回合宿にて測定）、 ハンドリングの向上
2022年 1月	兵庫県加古川市	（全国の新規感染者数急増の為、中止）
4月	千葉県長生郡 リソル生命の森	AT システムの習得、コンタクトフィットネス強化
5月	兵庫県加古川市 ゴールデンスター小野芝生 G	AT システムの習得、コンタクトフィットネス強化
7月	宮城県石巻市 セイホクパーク石巻	練習試合、AT システムの習得
9月	千葉県長生郡 リソル生命の森	練習試合、AT システムの習得
11月	岐阜県岐阜市 長良川球技メドウ	練習試合、DF システムの向上、キックオフのボール 再獲得の確立

<日本代表選手強化合宿>

実施日	実施場所、主な施設	主なテーマ他
2023年 1月	東京都八王子市 東京海上日動グラウンド	練習試合、セットプレーの精度向上
2月	大阪府東大阪市 近畿大学	練習試合、セットプレーの精度向上
3月	東京都八王子市 明治安田生命グラウンド	練習試合、試合前のルーティン確立

## 2. 2nd World Deaf Rugby Sevens Championship 日本代表（以下、Quiet Japan）の

### 強化と成長

今回の代表選手の選考にあたり、1日に数試合行われる国際試合を十分に戦えるレベルに達しているかの判断基準を基に連盟理事の方々とは検討を行った。検討の中で社会人になって始めたラグビー経験の浅い選手を代表選手として遠征に連れていくことに対して、本当に悩みに悩んだ。デフ選手はご存知の通り、聴覚に障がいを持っている。そこにこれからの本人の人生において大きな怪我を負う、障がいが残るなど、聴覚障がいと異なる障がいとなった時を考慮して責任を持って連れていくことができなかつた。その結果、リザーブ選手が不在の7人で世界大会に臨み、国際試合に出場できるレベルまで強化することができなかつたこと、選手たちに大きな負担をかけてしまったことは全て私の力不足でした。海外のチームと対等に戦うために国内の強化合宿において、下記の3つのポイントを重点に強化を行なった。

#### (1) フィットネスの強化

日本が世界と戦うためにフィジカル面ではかなり厳しいことはどのスポーツにおいても共通している。またフィットネスで勝負している点も共通している。そして聴覚障がい者は目から情報を得る為には、どんな状況においても体がしっかりと動いている、意識がある状態でなければならない。フィットネス不足の場合、目から得られる情報が欠如する為、重大な怪我につながる恐れがある。その為、フィットネス向上は避けて通れない。毎回の合宿の初日にフィットネス測定（BRONCO Test）【※1】を行ない、記録を選手にフィードバックし、選手自身がフィットネス向上の必要性、危機感を持たせた。

また Quiet Japan は選手全体的に実戦の経験が乏しい為、毎回の合宿に練習試合を盛り込みました。3月の明治安田生命合宿では合宿の最終日に前回の WDR7's を参考に練習試合を3試合組むことで、予行練習し、次の試合までの体のケア、補食の意識を再認識させた。

【※1】 BRONCO Test : 20m シャトルランを検討していましたが、音楽に合わせて測定を行う為、聴覚障がい者にとっては測定不可能である。代替えとして BRONCO Test を採用。スタートラインから 20m 地点で折り返し、スタートラインに帰り、またスタートラインから 40m 地点で折り返し、同様に 60m 地点で折り返し、これを 3 セット続けて行う。

#### (2) アタック（AT）システムの確立

海外のチームだけでなく、健聴者チームも含めて一般的にグラウンド幅いっぱいを使い、7人の選手をフルに動かしてアタックを行なっている。しかし、Quiet Japan の場合、自ら仕掛け、相手のディフェンスを打開し、ボールを推進する力が不足している。またボールキャリアが孤立されると外国人選手との体格の差でボールを奪われ、失点に繋げられる

こと、体力の消耗が激しかったことから前大会時のATシステム【※2】の成熟度を上げた。それをベースにコンタクトプレーを極力避け、ボール支持率を上げ、頭を使うスマートなラグビーを目指す戦い方で選手と共有した。

2022年11月の合宿に小澤大選手（トヨタヴェルブリッツ、元7人制日本代表）、2023年2月、3月の合宿に徳永剛コーチ（日本ラグビーフットボール協会、男女ラグビー7人制日本代表ストラテジーディレクター）と雨谷康孝コーチ（NTTドコモ）がスポットコーチとして代表チームを強化していただき、キックオフのボール再獲得、スクラムの安定化、ラインアウトの獲得率向上、Warming up ルーティンを確立など、選手たちに余裕を持って試合に臨むことができ、試合で遺憾なく発揮できた。

#### 【※2】 前大会時のATシステム

失点のリスクを少しでも下げる為に、グラウンドを縦に半分にアタックエリアを二分割に限定し、片方のエリアにて3人でアタックを仕掛け、3人でボールのリサイクルを行なう、中央の1人にボールを預けて、もう一方のユニットで仕掛けるというシステムを確立し、その結果、孤立によるターンオーバーからの失点が減った。

#### (3) ディフェンス（DF）システムの確立

対戦チームによって7人をゴールラインに平行に1列のDFラインを構成して対応する、または相手のキックに備えて、1人をスパーの役割として後方に配置し、残りの6人でグラウンド横幅いっぱい、DFラインを構成して対応するなど、様々なシステムがあります。

今回の代表チームは臨機応変に対応する能力が高く、試合開始早々、相手がキックを使うチームなのか、そうでないチームなのかを見極めて、DFシステムを変えた。また相手の内側の肩と自分の外側の肩を合わせて、DFする手法を取ると共に、選手が横に腕を広げた長さを最低限の守備範囲とし、面としては短い、その分、味方との間隔が狭くなっている為、外国人特有のパワープレーに対応でき、気持ち的に余裕を持ってディフェンスを行なうことができた。

### 3.大会を通して

今大会のゴールは、前大会の順位（4位）より上の順位を取ることでした。

初戦は Barbarians（香港を中心にブラジル、アメリカ、チリ選手が含まれる）と対戦。試合開始直後、相手のペースに合わせて、ゆっくりとした展開だった。日本→ドバイ→ブエノスアイレス→コルドバと搭乗時間が30時間超という長時間移動からの疲れが取れていないかと思われた。初戦は勝利を何とか勝利を納め、前大会と今大会と二連覇した Wales と対戦。ここから選手達にスイッチが入った。大会の2日目に体調不良者が1人出た為、大会本部や各国代表者に確認し、大会の規定により各国のバックアップ選手をレンタルす

ることが出来、Wales から 1 人レンタルし、7 人で大会を戦い抜いた。選手のレンタルについて、当日、試合直前まで交渉に時間を費やしてしまったことが悔やまれた。今後、遠征前までに大会本部と大会のルール、マニュアルを細部まで確認し、当日、滞りなく対応できるように準備を万全に整えるようにすべきである。

グラウンド内では選手同士で非常に多くのコミュニケーションを取り、日が経つにつれてチームとして成長していった。必ずしもその中に監督が入る必要がなく、必要な場合の時のみ入り、選手同士の決定、コミュニケーションを尊重するように心掛けた。

選手たちは健聴者ラグビーでも強豪である Wales、England、Fiji などに果敢に戦い、目標には届かなかったが、目の前にある戦いに力を出し切ってくれました。最終戦を終えた瞬間、本当に最後まであきらめないことを選手から教わりました。これは日本デフラグビーの財産です。「次大会でメダルを取ることを目指す Quiet Japan にとって、この経験を世界基準として次の Quiet Japan に伝え、繋げてくれることを期待しています。

#### 4.お礼

今回の遠征は、日本ラグビーフットボール協会、そして三機工業株式会社をはじめ、多くの企業、個人協賛していただいた方々、また選手を派遣してくださいました企業、チーム、関係者方々、この Quiet Japan に関わってくださいました全ての方々の多大なご支援をいただいたことで実現できました。深く感謝申し上げます。言葉では表わせないくらい、貴重な体験ができたことを嬉しく思います。そして、選手達はこの遠征を通して、自分の意志、熱意をしっかりと周囲の方々に示し、ご理解していただければ遠征を実現しなかったこと感じ取ってくれたと思います。一生の財産となる充実したものとなり、心から感謝しています。今後ともデフラグビーをよろしく願いいたします。

## アスレティックトレーナー活動報告

アスレティックトレーナー 平田 昂大

今回、2nd World Deaf Rugby 7's, in Argentina 2023 に向けた強化合宿と競技大会でのアスレティックトレーニングサポートを実施しました。活動期間は、代表選手が決定し、強化合宿が行われた 2023 年 1 月から大会が行われた 4 月まででした。私のデフ日本代表チームへのサポートは、2018 年に行われた 1st World Deaf Rugby 7's、2019 年香港遠征に引き続き 3 回目の経験となりました。前回までの経験を活かし、今回は下記の 3 点を目標に国内合宿及び、アルゼンチン遠征期間中のデフ日本代表チームのサポート活動を行いました。

1. 遠征前・遠征期間中のコンディショニング・リコンディショニング
2. ピークパフォーマンスの発揮

### 1. 遠征前・遠征期間中のコンディショニング・リコンディショニング

日本でよく知られている 15 人制ラグビー（ラグビーユニオン）は、前後半 40 分ずつの試合でスプリントやタックルなどのコンタクトプレーを繰り返し行う、高強度の負荷がかかるスポーツです<sup>1)</sup>。今回のラグビーセブンズは通常のラグビーグラウンドの大きさで、1 チーム 7 人で競技を行います。試合時間は、ラグビーユニオンより短く前後半 7 分ずつですが、ハーフタイムは 1 分（ラグビーユニオンは 12 分）と短く、1 日に複数の試合を行います。そのため、セブンズのプレーヤーは、ユニオンのプレーヤーよりも高い心理的・生理的ストレスを経験しているという報告もあるほどです<sup>2)</sup>。

デフ日本代表チームに注目すると、普段は会社等に勤務しており、週末にラグビーの練習、トレーニングを行っている選手で構成されており、大会に向けて急激に運動強度が上がってしまう恐れがありました。急激な運動強度の変化は、スポーツ外傷・障害の原因になり<sup>3)</sup>、一般に、日頃運動不足の人が急に高強度の運動を行う際は急性心筋梗塞のリスクが大きく高まることが知られています<sup>4)</sup>。そこで私は、今回の活動が始まった 2023 年 1 月に、まず選手の健康状態の聴取と、これまでの合宿で実施されたフィジカルテストの結果を確認しました。そのうえで、健康状態に懸念がある選手については個別に面談を行い、健康診断の経過と主治医の指示から、遠征期間中の対応を検討しました。また、過去のフィジカルテストの結果から、全身持久力と最大筋力の個人個人の目標値を決定し、大会までのトレーニングの継続・促進を図りました。

けが人、体調不良者は、強化合宿が始まった 1 月から大会前の 3 月までの 3 ヶ月間で、3 選手（ハムストリング肉ばなれ 2 件、膝関節内側側副靭帯損傷 1 件、急性腰痛 1 件、体調不良 1 件）あり、それぞれの情報収集と競技復帰に向けた対応をリモートで行いました。遠征期間中の 2023 年 4 月 1 日から 14 日までの 14 日間では、大腿部打撲はあったものの、プレーに影響が出るようなスポーツ外傷・障害の発生は 0 件でした。しかし、大会 2



日目の4月7日に体調不良者が1名、その後、4月11日に実施した帰国のための新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のPCR検査で先の体調不良者1名を含む3名が陽性、4月12-14日の帰国のための移動中に新たに別の1名が体調不良となり、その状況把握、対応を行いました。PCR検査陽性者は予定よりも1週間以上遅れての帰国となりました。

大会期間中に、競技に影響が出るような大きなけがを出すことなく、大会を終えることができたことは、それまでのコンディショニングサポートや選手・スタッフ一人ひとりの自己管理の賜物あり、今大会を通して良かった点だと思います。しかし、体調不良者が複数人出てしまったことは、今後の遠征時の課題であると考えています。

今回、遠征期間中、アスレティックトレーナー（AT）ルームでの毎朝の体重測定に加えて、緊急時対応計画（EAP: Emergency Action Plan, 図1）を策定し、けが・事故・急な病気に対応できるように準備していました。しかし、明らかに体調が悪くなってからの申告や、本人からではなく周りの人からの報告によって事態を知ることになってしまい、結果的に初動が遅れた可能性を否定できません。次回の遠征の際には、事前に十分な選手・スタッフ教育、情報共有をした上で遠征に臨む必要があると痛感しました。

## 2. ピークパフォーマンスの発揮

今回の遠征では、日本とアルゼンチンとの時差が-12時間、飛行機での移動時間が10時間+20時間の計30時間のフライトでした。そのため、時差、長時間フライト対策として、機内や乗り継ぎの際に実施する行動を事前に選手・スタッフに共有し、実施しました（図2）。

日本から準備した医薬品、サプリメント、テーピング等の物品とその使用方法をチーム全体へ周知し、ATルームに設置するとともに、日常的に使うものは選手一人ひとりに配布して、活用しやすいように工夫しました（図3）。

大会期間中では、前大会で3件出していた熱中症や脱水によるパフォーマンスの低下を懸念していました。日本（東京）とアルゼンチン（コルドバ）の4月平均気温は5°C以上差があり、アルゼンチンでは秋に差し掛かっているものの日中は30°Cに迫る暑さでした。そこで、時差による睡眠不足対策、体重のモニタリングとスポーツドリンク・経口補水液による脱水対策を講じました。その結果、前回大会で3件出していた熱中症を今大会では0件に抑えることができました。

また、ウォーミングアップの内容を事前に決めて、強化合宿でシミュレーションできたことが功を奏しました。今大会に向けた強化合宿では、監督、コーチと事前に打ち合わせをして、基本的なウォーミングアップとラグビーに関連するウォーミングアップの内容を決めて、強化合宿で繰り返し実施したため、選手たちもその内容を理解できていました。大会中は、運営の関係でスケジュールが前後したり、監督、ATがウォーミングアップの場に居られなかったりしたケースがありましたが、選手たちが主体的にウォーミングアップ

プを実施して、試合に備えることができました。

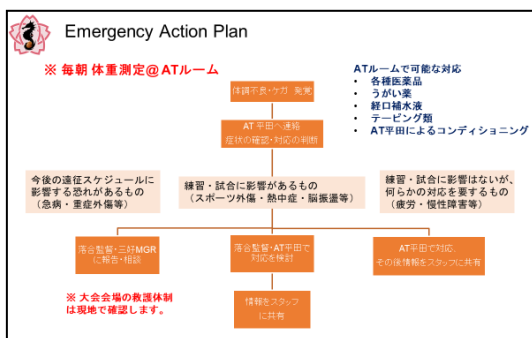


図1 アルゼンチン滞在期間中の EAP

**Flight Announce**  
11.5 + 20 hours, Jet lag JPN to ARG: -12h

① 1st Flight (11.5h) ✈️

4/1 22:30(JPN), 10:30(ARG) Departure @Narita  
4/2 9:30(JPN), 21:30(ARG) Arrive @Dubai

② 2nd Flight (20h) ✈️

4/2 8:00(UAE), 1:00(ARG) Departure @Dubai  
4/3 3:30(UAE), 20:30(ARG) Arrive @Buenos Aires

**To Do List**

- ☑️ 搭乗前はカフェイン禁止
- ☑️ マスク・着圧ソックス着用
- ☑️ ドバイまで睡眠

**To Do List**

- ☑️ マスク・着圧ソックス着用
- ☑️ 1回目の機内食後に睡眠
- ☑️ 2-3回目の機内食の間は覚醒

映画鑑賞・ストレッチ・コーヒー

**Transit 3 hours**

**To Do List**

- ☑️ 時計・行動をARGタイムに変更
- ☑️ エクササイズ

**To Do List**

- ☑️ ホテル到着後速やかに睡眠
- ☑️ 起床とともに日光浴 & エクササイズ

図2 移動時間のコンディショニング戦略

**AT's Room @Cordoba**

- ◆ 擦り傷などの処置
- ◆ 体温・体重測定
- ◆ 痛み止めクリーム (筋肉痛・マッサージ用)
- ◆ その他
  - マスク
  - ゴミ袋
  - 紙コップ
- ◆ 医薬品
  - うがい薬
  - 消炎鎮痛剤
  - かぜ薬
  - 胃腸薬

LOXONIN

バシロンG

**配布物**

- ◆ アミノバイタルプロテイン ... 8個  
目的: プロテインとして購入  
成分: たんぱく質40g・含有たんぱく質量  
飲むタイミング: トレーニング・運動後、1日の終わり
- ◆ エナジージェル ... 6個  
目的: 運動時のエネルギー補給  
成分: 炭水化物・ナトリウム  
⇒ 1本で約1時間分のエネルギー補給  
飲むタイミング: 運動10-20分前・運動中
- ◆ 経口補水液 ... 5袋・2.5L分 (1袋あたり500mL)  
目的: 脱水・熱中症予防  
飲むタイミング: 毎練習・試合時に最低1袋 (500mL) は持ってきて、すぐに飲めるように準備してください。
- ◆ ボカリスエット ... 2箱・10袋・10L分  
目的: 水分・塩分補給  
飲むタイミング: 毎練習・試合時に最低2袋 (2L) は持ってきて、すぐに飲めるように準備してください。
- ◆ ビタミン剤 ... 8個・8日分  
目的: ビタミン補給  
飲むタイミング: 1日1個、忘れずに飲んでください。

図3 日本から持ち込んだ物品とその使用方法

最後になりますが、今回、デフラグビー日本代表チームに対してご支援、ご声援いただいた全ての関係者の方に厚く御礼申し上げます。また、このような貴重な機会を与えてくださった全ての方々に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) Duthie G, Pyne D, Hooper S. Applied physiology and game analysis of rugby union. Sports Med. 2003;33:973-91.
- 2) Takahashi I, Umeda T, Mashiko T, et al. Effects of rugby sevens matches on human neutrophil-related non-specific immunity. Br J Sports Med. 2007;41:13-8.
- 3) Gabbett TJ. The training-injury prevention paradox: should athletes be training smarter and harder? Br J Sports Med. 2016 Mar;50(5):273-80.
- 4) Franklin BA. Preventing exercise-related cardiovascular events: is a medical examination more urgent for physical activity or inactivity? Circulation. 2014 Mar 11;129(10):1081-4.

## 2nd World Deaf Rugby Sevens Championship, in Argentina 2023

手話/英語通訳 西尾 香月

第一回世界デフラグビーセブンズ大会 in オーストラリアに続き2回目の世界大会に通訳スタッフとして参加させていただきました。

この度は、自身としても初めての南米訪問ということもあり、治安面、生活面など出国前から不安が多くありましたが、大会前の合宿の際や、オンラインミーティングなどで現地の情報をまとめて伝えてくださいました。細かい指示をいただけたことで不安を軽減して出発することができました。

現地では、生活面では買い出しや晩ごはんのお店の確保などスタッフ業務も少し手伝い、また試合ではウォーターボーイとしてお手伝いするなどさせていただきました。

日本とは違う環境で大変なことも多かったです。選手の皆さん、スタッフの皆さんのおかげで困ったこともなく過ごすことができました。もっと音声言語の英語やスペイン語、国際手話やオースラン(オーストラリア手話)などを困らない程度に話せるように学んでいけば、もう少しチームのために活動できたのではないかと反省しています。

大会終了後、気を緩めてしまい最終日に体調を崩してしまいチームの皆さんにご迷惑をおかけしてしまったことが本当に申し訳なく思っています。

日本からの皆さんの応援、多くのスポンサーの皆様のおかげでアルゼンチン大会に日本代表チームのみんなで参加させていただき、感謝しかありません。

今大会の反省を活かし、今後また通訳として参加させていただけることがあれば、これまで以上に日本代表チームに貢献できるよう日々努力をしようと考えています。日本代表チームの通訳スタッフとして参加させていただき、ありがとうございました。

## 2nd World Deaf Rugby Sevens Championship, in Argentina 2023

英語通訳/分析 柴谷 晋

### 1. 活動目標

(英語通訳) 日本選手団の現地での活動, および国際会議でのやり取りをスムーズに進める。(分析) 対戦相手に関する情報提供および, 選手への迅速なフィードバック

### 2. 活動内容

(英語通訳)

- ・ 現地での通訳 (空港, ホテル, レストランなど)
- ・ 運営上の手配 (レストランの予約, バスの手配, ガイドさんへの依頼, 大会運営者への質問など)
- ・ 国際会議での通訳 (英語⇄日本語)

(分析)

- ・ 試合映像撮影の手配, 試合映像のダウンロード, 編集および共有
- ・ 対戦相手に関するプレゼンテーション

### 3. 活動に関する反省点

(英語通訳)

- ・ 大会開催地コルドバは、アルゼンチン第2の都市であるが、ホテルであっても英語が通じないことがあった。しかし、筆談や多少のスペイン語で対応することができた。
- ・ ガイドさんとのやり取りは、通信アプリ what's APP を用いることが多かった。日本からポケット Wi-Fi をレンタルしていたので、Wi-Fi 環境がないグラウンドや街中でも連絡を取ることができた。
- ・ 国際会議や開会式は、主催者側が、必要な通訳環境を準備していないことが多く、苦勞をした。事前に環境を問い合わせる必要であればリクエストすることが必要だった。

(分析)

- ・ 試合のストリーミングが実施されるかどうか直前まで判明しなかったが、結局全試合ストリーミングされた。試合後のホテルで YouTube からダウンロードし、ドロップボックス経由で選手に共有した。
- ・ 試合の間に、選手たちが自分たちの試合を見て、レビューすることを想定していたが、待機場所が屋外だったことや、疲労もあり、試合間に映像を共有することはほと

んどなかった。その代わり、こちらが対戦相手の試合を見て、ウォームアップ前に特徴を伝えた。

・大会最終日前日には、選手たちに対戦相手の分析を依頼した。選手たちの成長につながる取り組みになったと思うので、今後も続けていけると良い。

4. 終わりに、今回このような貴重な機会を頂戴したことを関係各位、ならびに多大なご支援を頂いたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

## 2nd World Deaf Rugby Sevens Championship, in Argentina 2023

スタッフ 三好 菜々子

コロナ禍による活動規制が緩和されるようになってから、今回の海外遠征までの半年間、ファンとして、マネージャーとして、合宿のサポートをさせていただいておりました。私も世界大会という大きな大会で、みなさんのそばで応援したいという一心で、今回の海外遠征に参加したいと応募したものの、初めての海外遠征、アルゼンチンという遠い国で、私自身に何ができるのか、スタッフやチームの足を引っ張らないか、内心すごく悩みました。

そんな不安を抱きながらも、スタッフ間で重要事項の確認を重ね、準備を進めていくうちに出発の日になり、スーツを纏い、出発しました。

世界大会期間は、気を張り詰める毎日で、本来サポートすべき立場にも関わらず、緊張のあまり、表情も硬くなってしまいうこともありました。ですが、スタッフや選手の支えがあったおかげで、どんな事も楽しむことができ、自分でも信じられないほど前向きになれたと思います。

当初は、14日と長く感じましたが、いざ終わってみるとあっという間で、まるで夢だったのかというような充実した日々でした。

今回の経験は、自分自身の成長のきっかけになっただけでなく、どんなこともチームで乗り越えられる強さ、普段どれだけ周りの人に支えられているかを肌で感じることができ、忘れられない経験となっています。

そして、日常生活では味わえない素晴らしい経験をさせていただけた事に感謝するとともに、私にとってもかけがえのない存在であるデフラグビーにこれからもスタッフとして、チームに貢献し続けることで、陰ながら皆さんを支えていきたいと思えます。

最後に、支援して下さった皆様、スタッフ・選手の皆さん、本当にありがとうございました。これからも引き続き、よろしく願いいたします。

## 2nd World Deaf Rugby Sevens Championship, in Argentina 2023

管理栄養士 金子 香織

### 1. 活動目標

アルゼンチン コルドバ州で開催された第 2 回 World Deaf Rugby 7's において、選手の最大パフォーマンスを発揮できるための事前の食環境の整備、情報提供を行う事を目的としました。遠征帯同のない外部スタッフとして、主に選手教育、情報提供を軸に栄養サポートを実施しました。

### 2. 活動内容

#### 【栄養セミナーの実施】

遠征前のチームのオンラインミーティングで栄養セミナーを 2 回実施しました

- ・ 2 月 27 日 セブンズの試合の日の栄養スケジュール
- ・ 3 月 26 日 海外遠征での諸注意、時差対策と移動スケジュール

#### 【現地での食環境整備とコンディショニング情報提供】

- ・ スケジュールに応じた栄養・食事計画の立案
- ・ 現地での補食としてアルファ米の紹介と提供オペレーションの提案
- ・ マネージャーと連携して現地食情報（外食・スーパーマーケット）の事前調査

#### 【アスレティックトレーナー、スタッフとの連携】

- ・ アスレティックトレーナーの平田さんと連携をして選手のコンディショニングに関連するサポートを実施しました（栄養・水分補給・サプリメント・時差調整など）
- ・ 栄養スケジュール、現地食情報の整備を主に三好スタッフと連携して行いました

### 3. 終わりに

帯同を行わない外部スタッフとして、チームのアルゼンチン遠征をサポートしました。チームスタッフや選手が、現地で少しでも適切な栄養・食事・水分補給ができるような環境を整える事を念頭に置いて活動しました。事前ミーティングをオンラインで行いましたが、音声言語＋手話で選手への栄養講習などが出来たことは良かったと思います。日常的にもっと栄養・食事に関連する教育ができるとさらに良いと感じました。

(特非)日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟の活動として今回の大会遠征が行われましたが、参加メンバー以外にも多くの方々に関わりながら活動をしています。今回はスタッフの一員として、SNS で現地での情報の共有を行いながら活動することでよりメンバーの皆さんと共にチームの喜びや困難を感じながらポートすることができたことはとても嬉しく思います。今後も手話ができるスポーツ栄養士として、チームの発展に少しでも貢献できれば嬉しいです。皆様、お疲れさまでした！

## 2nd World Deaf Rugby Sevens Championship, in Argentina 2023

主将 岸野 楓

2nd World Deaf Rugby Sevens Championshipはクワイエット・ジャパンにとって悔いの残る結果であったとともに今後の明るい未来を示してくれました。

結果は7位で目標であったメダルを持ち帰ることはできず、主将としての責任や悔しさを帰国した今でも忘れられません。しかし、前回大会に出場した経験者として「クワイエット・ジャパンが世界一になる日はそう遠くない、次は必ず優勝できる」と確信しています。

各国の強さを肌で感じた中で、クワイエット・ジャパンにとっての課題は明確になりました。1つ目は、選手の数確保と個人のスキルを上げることです。

2つ目は、継続的に練習や試合を行い、実践経験を積み重ねていくことです。

次回の大会で世界一を奪還すべく帰国してからすぐ再スタートを踏み出しました。クワイエット・ジャパンを強化していくべく自分の役割をしっかりと果たし、今まで以上に貢献度を高めていきます。

個人的には大学時代より選手としてのブランクが残っており、努力不足であったことは否めません。よりチームを引っ張ることのできるプレーヤーになっていくために、日々の生活習慣から見直し、自分を律していきたいと思っています。また、主将としてチームを一つにまとめあげることや立ち振る舞い方の難しさに直面しました。そんな時は一人で抱え込まず、チームのみんなを頼りにし、リーダーとして常に何ができるか考え、行動することの大切さに気づきました。地球の真反対側で約30時間の大移動は選手にとってタフな環境でしたが、帯同スタッフの皆さんのご尽力のおかげで選手一人一人最大限のコンディションを整えてくださったことに大変感謝しています。クワイエット・ジャパンは世界一魅力的なチームです。

最後に、多くの企業様や関係者の方々に多大なご支援をいただいたことに感謝の気持ちを申し上げます。

## 2nd World Deaf Rugby Sevens Championship, in Argentina 2023

副将 相澤 一志

初めての世界大会が終わりました。デフラグビーを初めて知ったのはFacebookで2018年の第1回デフラグビーセブンズ世界大会が開かれるという記事を拝見し、もしかして自分も出来るのかもしれないと、そう思ってすぐに連盟に連絡し関東で合宿があるのでぜひ参加してみてください。と返事が来ました。このきっかけでデフラグビーという新たな人生が始まりました。

2019年から積極的に合宿に参加し、2021年に地元宮城県東松島市で東京オリンピック2020の聖火ランナーとしてデフラグビーの認知度や障害者への勇気や希望を少しでも与えたいと気持ちを持ちながら走り、また宮城県の小学校で障害者と接し方やラグビーの魅力など伝えたく講演をしてきました。

今年1月から第2回デフラグビーセブンズ世界大会へ向けての強化合宿が始まり、この時初めて副主将という大きな役割を頂きました。僕で大丈夫かなあと不安が大きかったが周りを見ると頼もしい仲間がいるとそう思って不安はなくなりました。今回の合宿での目標は皆とのコミュニケーションを沢山取れることを目標にしました。ラグビーはチームプレーなのでコミュニケーションが大事です。遠征までしっかりチーム力をあげて外国にも負けない戦術やフィットネス強化をしてきました。

大会開催地であるコルドバで開会式が開かれました。周りを見ると体のデカイラグーマンが沢山いたことがビックリしました。初めての国際大会だったので緊張よりワクワクとやってやるぞという気持ちが大きかったです。1日目は3試合行い1勝2敗、2日目は2試合行い2敗、大会最終日は7位8位決定戦行い勝利し日本の結果は7位という順位で世界大会がおわりました。

振り返ってみると個人的に何が足りなかったのが思い知らされた世界大会でした。この悔しさを次の大会までしっかりクラブチームやデフラグビーでの練習、試合を重ねて日本は「優勝」という最大の目標を掲げチーム力、コミュニケーション力をしっかりあげて頑張っていきたいと思います。

また今後、東北6県ラグビー関係者や講演など積極的にデフラグビーの認知度を広げる行動を取っていきたいと思います。自分の他に東北から新たなデフラグーマンが現れると信じています。

最後に今回の世界大会でサポートしてくれましたスポンサー様、個人協賛をしてくださいました沢山の皆様、強化合宿の相手をしてくださいました東京海上日動ラグビー部様、近畿大学ラグビー部様、明治安田生命ラグビー部様、そして僕を応援してくれた家族、会社、クラブチーム、ラグビー関係者など沢山の方々に感謝しきれないほど沢山のサポートありがとうございました。



## 2nd World Deaf Rugby Sevens Championship, in Argentina 2023

副将 小林 建太

プラチナスポンサーの三機工業株式会社をはじめ、多くの協賛企業様、支援して下さった個人方々、寄付して下さった方々と多大なるご支援を頂き、心より感謝申し上げます。

日本代表は「優勝」を飾ることはできず、支援して頂いた方々の期待に応えることが出来ませんでした。

勝ち損ねた試合が多く、「勝利」をみなさまに届けられなかったことには悔しさも感じています。

この悔しさを晴らすために私は、デフラグビーにおける今後の活動を「全力」で取り組みます。

そこに近道はありません。「不撓不屈」の気持ちをもって、デフラグビーに貢献することを約束します。

私としては初めての世界大会。とても不安でした。はるかに遠い異国の地からやって来た日本代表のメンバーを盛大に歓迎してくれたことは一生忘れません。そのお陰で不安が一気にかき消され、幸せな海外生活を送ることができました。世界はまだまだ広い。色々と冒険したくなる瞬間でした。

最後になりますが、“肌の色が違っていても” “言語が通じなくても” “障害があっても”

皆でラグビーを楽しむという場に立ち会えたことが何よりの幸せでした。

改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

## 2nd World Deaf Rugby Sevens Championship, in Argentina 2023

川上 能壽

先ず、ご支援してくださった連盟、協賛してくださった企業様、個人様方々に厚く御礼申し上げます。たくさん合宿を実施する事ができ、監督、選手やスタッフ一同が良い準備が出来て、良好状態で世界大会に臨むことができました。リザーブのいない7人で臨むことになり、危機感もありましたが、私としてはこのメンバーなら優勝できる！と確信し、誇りをもって出国しました。

結果的には7位に終わってしまいました。どの試合とも拮抗した戦いだったのでメダルを取れなかった分、悔しい思いです。

私は、2,3日目の試合は体調不良で欠場してしまいました。初日に良いパフォーマンスができたので、そのままの勢いと思った矢先だったので、とても残念でした。

私自身3度目の世界大会ですが、アルゼンチンの地で日の丸の重圧、外国人選手たちと試合する楽しみ、ぞくぞくする緊張感などを味わいながら独特な雰囲気の中でラグビー出来たことは光栄なことだと、大変嬉しく思います。

日本と世界の差は、そんなに離れてないと実感してきて、今後は若い選手たちの指導・育成しながら、自分自身もよりトレーニング積んでいきたいと思っています。

## 2nd World Deaf Rugby Sevens Championship, in Argentina 2023

福井 拓大

今大会は、日本の反対側であるアルゼンチンで行われるというワクワクな気持ちでいっぱいだったが、前大会の時に感じた世界との壁を思い出し、緊張感もあった。

開会式が始まると、アルゼンチンの選手が、指をじゃんけんのチョキのようにして、自分の目を指した後、チョキの指で僕の方を指した。しかし、それが何を表しているのか分からなかった。その選手に聞くと、「俺はお前を知っている（覚えている）。」と言われた。認識されていることが、本当に嬉しかった。ほかにも、5年前の第1回の大会の時に会った選手が何人か覚えてくれていたのがとてもうれしくて、いろんな国のチームと写真を撮った。試合するのがさらに楽しみになっていた。

試合結果は、悔しい結果になったが、第1回の際に感じた壁は、それほど感じなかった。なにより、自分もチームメイトも次へという意欲を感じることができた。この経験を日本から応援してくれていた他の選手に伝えて、次に繋げていきたい。

ラグビーというスポーツには、「ノーサイド」という言葉があるように、試合が終われば、相手も自分もない。国籍が違って、言葉は通じなくても、僕たちはラグビーをやっている「仲間」というのをすごく感じた大会だった。

## 2nd World Deaf Rugby Sevens Championship, in Argentina 2023

大塚 貴之

日本代表が地球の裏側、アルゼンチンで開催された 2nd World Deaf Rugby 7' s に遠征し、無事帰国ができましたのは、スポンサー企業をはじめ、応援して下さった関係者ならびにファンのみなさまのご支援によるものでございます。心より深くお礼申し上げます。

前大会の 2018 年は 2002 年に開催された国際大会以降、16 年ぶりとなる国際大会の開催でした。世界中のデフラグーマンの歓喜に満ちた大会であることを今でも鮮明に覚えております。次の大会は 2022 年に行われる予定でしたがコロナの影響により、2023 年に延期となりました。

我々日本代表チームは、未曾有の事態に一時的には活動休止しましたが、コロナに屈せず、挫けずひたすら前をむき活動していく中で多くのスポンサー様、個人よりご協賛していただきました。

大会自体は 7 位となり、私個人としては不本意な結果となり大変悔しい思いをいたしました。それ以上にデフラグビーの国際大会を継続していくことと、前大会から参加国が 2 カ国増えたことに大変意義のあることを感じております。

今後も日本代表は優勝を目指し、国際大会に参加しつづけて、世界デフラグビーがより発展できるように貢献してまいりたいと思います。

最後にスポンサー企業をはじめ、応援して下さった関係者ならびにファンのみなさまに重ね重ねお礼を申し上げます。

## 2nd World Deaf Rugby Sevens Championship, in Argentina 2023

日野 敦博

三機工業株式会社をはじめ、協賛企業、個人方々・・・多くの方々の心温まるご厚意に深く感謝しております。最終的には予想をはるかに超えた、心温まるご厚意を頂きまして、何と御礼を申し上げればよいか、言葉もございません。

今回も選手だけでなく、理事長として、国際担当として兼務しながら準備をしてきましたが、コロナの影響による運営面がかなり厳しく、開催2カ月前の2023年2月までは中止・延期のやむなきに至ったりして、不安が大きく体調を崩してしまったなどの長い準備期間でしたが、無事に開催し、大きなトラブルがなく終わった事は嬉しく思っております。

デフラグビーはマイナーで、デフリンピック（聴覚障がい者のオリンピック）に加盟してないことで、国際（世界）大会を継続していくことはなおさら厳しい環境です。そのような環境でありながらも、小さな行動の積み重ねで、少しずつ認知度を上げ、応援して下さる方が増え、ついには世界大会に少なからず協賛してくれる地元の企業が出て、今回は南アフリカとアルゼンチンが初出場したという各国の「デフラグビーファミリー」の熱い想いが動かしたのではないかと、今後の国際発展そして国内での発展にもっと力を入れたいと思つた次第です。

遠征前に、優勝獲るとか、上位成績を残すなど、甘い考えを持ってしまったことを猛省し、届きそうで届かなかった悔しい気持ちにより、次回のWorld Deaf Rugby 7'sに向けてのクワイエット・ジャパンの成長が楽しみです。

今回の遠征も、急遽、計画変更したり、中止になったり・・・色々とトラブルがありましたが、その度々に臨機応変で対応して下さったスタッフをはじめ、遠征メンバーに感謝と共に、自身の成長ができた良き経験でもありました。

最後に改めて、御礼を申し上げます。ありがとうございました。

## メディア掲載リスト

■NHK Eテレ1 「ハートネットTV」 3月22日放送

<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/804/>

■NHK 仙台 「てれまさ」 3月31日放送

■目で聴くテレビ 3月21日、25日、27日放送

■河北新報社掲載 相澤選手の宮城知事への表敬訪問

■ラグビーマガジン 5月号掲載

■ラグビーリパブリック 5月2日掲載

<https://rugby-rp.com/2023/05/02/etc/98532>

■ラグビーリパブリック 6月4日掲載

<https://rugby-rp.com/2023/06/04/etc/99900>

■ラグビーリパブリック 6月6日掲載

<https://rugby-rp.com/2023/06/07/etc/100096>



## 今後、下記の3点を主たる計画として取り組みます

### ■普及プロジェクト「ゼロイチプロジェクト」

全国の聾学校に「ぼくらはばらばら」の絵本を寄贈し、各地の聾学校からタグラグビー体験の依頼を受け、出張教室の企画を増やしていきたく思います。また、デフスポ、なかまの集いやわくわくデフスポーツ体験の普及活動を恒例化し、聞こえない、聞こえにくい子供たちとの交流する機会を増やします。



### ■共生プロジェクト

聞こえにくい環境にて音や声以外での、互いにコミュニケーションをとる方法を考えてもらい、「気づく」ことで、共生社会をともにつくっていきます。

(公財)日本ラグビーフットボール協会主催の「みんなでラグビー体験会」の際、聴者方々に「聞こえにくい環境でのコミュニケーション」を体験してもらいます。

※弊連盟オリジナルイヤホンを装着してもらいます。



### ■国際プロジェクト

外国人との対戦経験を積むために、フィジー遠征を計画する。

第3回WDR 7's (*World Deaf Rugby 7's*) が計画通りに開催するよう取り組む。  
The Pacific Rim Deaf Rugby Sevens (環太平洋7人制デフラグビー大会) が開催できるよう、取り組む。

国内に限らず、海外にも視野を入れての活動範囲を広げ、デフラグビーファミリーを拡大したく、今後ともなにとぞ変わらぬご愛顧のほど、よろしく願いいたします。

特定非営利活動法人

日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟

理事長 日野 敦博

ご協賛いただき、誠にありがとうございます。

プラチナスポンサー：三機工業株式会社様



シルバースポンサー：吉岡株式会社様



吉岡株式会社

ブロンズスポンサー：株式会社ミカレア様、まつもとペインクリニック整形外科様、株式会社LIMA HOLDINGS様、キンググローリー株式会社様、岐阜清流病院様、大成建設株式会社様

MICAREA



MATSUMOTO  
PAIN CLINIC

まつもとペインクリニック  
整形外科

岐阜清流病院



オフィシャルサポーター

清川株式会社



## 個人協賛

村上 孝雄様、福田 洋様

森川 博之/雅司/有未様、齊田 綾様、植本 将雄様、中山 岳志様、徳田 宏様、  
吉識 伸様、大塚 恭弘様、角田 長俊様、澤田 久幸様、田尻 智洋様、阿潟浜 大光様  
永田 智博様、糸数 順司様、大塚 悦子様、竹内 眞之様、小林 浩治様、中川 章裕様  
堀 資雄様、加納 晶様、雨谷 康孝様、矢野 耕太郎様、泉 慎一様、和西 努様、  
富本 音丸様、石川 倫也様、榎本 弥生様、平坂 義則様、苅部 郁生様、喜多 政人様  
吉原 誠彦様、阿部 翔太様、佐藤 和加子様、ポロック 亜希子様、佐藤 敏隆様

※順不同 1万円以上でかつ、HPに氏名掲載を承認した方々を対象

個人協賛は、上記の方々を含め、164名様から頂戴いたしました。

## 助成金：スポーツ振興基金



### スポーツ振興基金

独立行政法人日本スポーツ振興センター

今回のアルゼンチン遠征、そして下記の選考強化合宿、日本代表強化合宿は  
スポーツ振興による助成を受けて実施いたしました。

2022年度第3回選考強化合宿、第4回選考強化合宿、第5回選考強化合宿  
第1回日本代表強化合宿、第2回日本代表強化合宿、第3回日本代表強化合宿

## 特別協力：(公財) 日本ラグビーフットボール協会

# ありがとうございました。





